

り洗浄性はすぐれている。油汚れにおいても CMC 処理の洗浄効率がよく、次いで  $\text{CH}_3\text{OH}$  処理、 $\text{CCl}_4$  処理の順に低い。

## 6. ヨゴレの種類・付着条件の相違による洗浄性

広島女子短大 水野上与志子

1. ヨゴレの付着機構・洗浄機構を明かにする研究の一部として、ヨゴレの成分、汚染法、洗浄条件の相違による洗浄性についてしらべた。

2. a) ヨゴレの種類 カーボンブラック (CB)、牛脂 (BT) ラウリルアルコール (LA)、流動パラフィン (LP) を用い、CB、CB+LA+LP、CB+BT+LP の三通りの組合せとした。

b) ヨゴレの付着前の状態  $\text{CCl}_4$ 、 $\text{CH}_3\text{OH}$ 、CMC 0.5% 溶液をそれぞれ吸着させた後、前記の汚れを  $\text{CCl}_4$  に分散し汚染した。

c) 洗浄条件  $\text{H}_2\text{O}$ 、洗浄剤 (脂肪酸ソーダ、アルキルアラリルスルホン酸ソーダ、非イオン系の 3 種) 洗浄操作 (浸漬法、L-O-M 法、攪拌法) の条件相違による洗浄効率を表面反射率測定により算出した。

3. a) CB 単独の汚れは、油を含む汚れより洗剤では洗浄性が劣る。 $\text{CCl}_4$ 、CMC 処理では  $\text{H}_2\text{O}$  浸漬法では洗浄前より暗くなるが、洗浄操作を加えると油汚れより洗浄性はよくなる。何れの条件でも CMC 処理の洗浄性がすぐれている。

b) CB+LA+LP 汚れは  $\text{H}_2\text{O}$  浸漬、攪拌法では CB+BT+LP 汚れより劣るが、洗浄剤での洗浄では後者よ